

科目名		先端血液解析学演習			分野・必選別・単位数	専門科目 (臨床検査技術学)	選択	2単位
科目責任者		◎教授 川杉和夫 准教授 福田晃子 准教授 藤原孝記						
課程		博士前期	配当年次	2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要		修士論文作成に必要な研究計画の立案、研究を実施するための様々な検査技術を身につける。また文献収集および解析、論文のまとめ方を習得する。						
授業の到達目標		①研究を遂行するための検査技術について知識を有している。 ②研究を遂行するために検査技術を活用できる。 ②症例を検査データとともに解析できる。 ③文献収集および血液検査学領域、輸血・移植免疫学領域の研究動向を説明できる。						
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	1	川杉 和夫	教 授		症例をベースにして、血液疾患の分子生物学的技術を解析できる。			
	2	川杉 和夫	教 授					
	3	川杉 和夫	教 授					
	4	福田 晃子	准教授		教員から提示される症例を検査データとともに解析できる。 ① 病態を理解、考察するうえで必要な血液学的、分子生物学的、免疫学的検査法を説明できる。 ② 敗血症例における血液凝固系・線溶系に異常が生じるメカニズムを説明できる。 ③ 輸血・細胞/器官移植を必要とする様々な症例において、HLAタイピングの意義、方法を説明できる。 ④ 輸血後移植片対宿主病 (GVHD) の症例を例示できる。 ⑤ 感染症と凝固・線溶系異常の複合的病態の評価に有効な検査法を説明できる。			
	5	福田 晃子	准教授					
	6	福田 晃子	准教授					
	7	福田 晃子	准教授					
	8	藤原 孝記	准教授					
	9	藤原 孝記	准教授					
	10	藤原 孝記	准教授					
	11	川杉 和夫	教 授		論文抄読を通して、血液検査学領域の研究動向を説明できる。			
	12	福田 晃子	准教授		論文抄読を通して、血液検査学領域の研究動向を説明できる。			
	13	福田 晃子	准教授		論文抄読を通して、血液検査学領域の研究動向を説明できる。			
	14	藤原 孝記	准教授		論文抄読を通して、輸血・移植免疫領域の研究動向を説明できる。			
15	藤原 孝記	准教授		論文抄読を通して、輸血・移植免疫領域の研究動向を説明できる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		【事前学修】	次回授業部分の資料を事前に読んでおくこと。					
		【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
		【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書		随時指示する。						
参考書		随時指示する。						
成績評価の方法および基準		レポート50%、口頭試問50%						
その他履修上の注意事項		試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						